

解説

推進工事技士取得への 取り組みと活用について

はしがや なおゆき
橋ヶ谷 直之
アサヒエンジニアリング(株)
営業部課長



1 はじめに

当社は、静岡県浜松市にて昭和60年の設立以来、一貫して推進工事の専門工事会社として営業してまいりました。設立当時は、刃口式推進が主流でしたが、浜松市は北部を除いて地下水位が高い砂質層、砂礫層が多いため、平成に入ると泥水式の採用が増えてきました。当社もそれに対応すべく泥水式の掘進機（先導体）を積極的に購入し、平成5年頃から浜松市を始め、静岡県内を中心に泥水式推進を数多く施工してきました。また低耐荷力管の泥水式であるユニコーン塩ビ泥水推進工法は、当社が設計・開発に携わり現在、全国各地において施工しております。

2 推進工事技士について

浜松市では平成17年、品確法の施工に伴い平成18年度より推進工事の入札参加資格要件に推進工事技士の専任での配置を取り入れました。県内では他に磐田市や袋井市、静岡市でも同様の配置が求められます。このような背景から当社では推進工事技士の資格取得に向け、会社を挙げて取り組んできました。また資格が必要な地元の建設会社からは勉強会の場を設けて欲しいとの要望があり、平成17年から平成20年にかけては毎年、推進工事技士の勉強会を実施しておりました。

勉強会は、学科試験前の6月と実地試験前の9月に当社の会議室において開催し、多い年で30名ほどが参加しました。当時、模範解答集は販売していませんでしたので、月刊推進技術に掲載されるその年の問題を社員が手分けして解答書を作成し、またどの分野から出題されたか、年度ごと分析して予想問題を作成しました（表-1）。参加者は、当社講師による過去問の解説、分析と出題傾向の講義、予想問題による模擬試験を受け本番の試験に臨みました。表-2は、平成19年度の勉強会出席者の合格一覧表です。学科試験の合格率が62.5%、実施試験の合格率が81.5%、トータルで50.9%という結果でした。この年の合格率が33.4%でしたので、勉強会の効果は高かったと思います。

3 資格取得を目指したきっかけと活用事例

ここで私自身のことを書きたいと思います。私は平成7年、大学の土木学科を卒業し浜松市内の建設会社に入社しました。入社5年目に下水道チームに配属となり呼び径500の泥水式推進の現場を担当しました。推進工事は初めてでしたが、一次下請会社のアサヒエンジニアリング(株)が施工計画から測量、現場管理まで全般的に協力してくれたおかげで大きなトラブルもなく、高精度で先導体を到達させることができました。その後、私は縁があってグループ会社であるアサヒエンジニアリング(株)

19